

第25回ヘブンアーティスト審査会 審査講評

第25回ヘブンアーティスト審査会の席上でのコメントを紹介します。この審査会は、コンクールではないので、決して、技の水準の高低を見ているわけではありません。審査の基準がよく分からない方や、今後自分のどこを改善し、どこを伸ばせばよいか悩んでいる方にとって、これまで見えていなかった視点を示す光明になれば幸いです。

これからヘブンアーティストとして活動される方、審査を受ける予定の方、パフォーマンスアートや音楽の道を志す全てのアーティストに対し、さらに技術や魅力を伸ばしてほしい、また、既存の枠や殻から突き抜けてほしいというメッセージを込めています。

（審査について）

「ヘブンアーティスト審査会」も今回で25回を数え、23年目を迎えました。

今回は、パフォーマンス部門104組、音楽部門93組の合計197組の応募がありました。

一次審査では、応募者が提出した動画を視聴し、魅力や独創性、将来性を感じ、観客を前にした実演を実際に見てみたいと思われるアーティスト（パフォーマンス部門36組、音楽部門16組の合計52組）を一次審査通過者として選定しました。

二次審査（公開審査）は、東京都庁都民広場を会場に、観客の前で約15分の公演を行ってもらい、その様子を審査しました。

（審査講評について）

実演を見た直後に行う審議であがった、審査の基準や評価の考え方の参考になるようなコメントを部門別に紹介します。

【■パフォーマンス部門】

- 合格点に達したアーティストの評価できる点
- 日用品による空間演出は意外な発想で、見せ方を工夫している点に好感が持てた。ボールのミスが多めではあったものの、技術力を示すパフォーマンスだった。
- 難易度が高いハットジャグリングを、ほぼミス無く行っておりレベルが高い。しゃべりが少し多いが、見るところ、笑うところ、突っ込むところが分かりやすく、観客が参加しやすくて良い。
- 顔の表情・立ち姿が良く、キャラクターにインパクトもあり、人を惹きつける力がある。タンバリンはいいアイディア。何だか幸せになれそうな気がして良かった。リアクションのバリエーションが増えとなお良い。
- ノンバーバルでも観客の巻き込み方がうまく、盛り上げどころがしっかりとあった。玉乗りもあまりやる人がいないので良い。
- 二人の身体能力・技術力が高く、また、二人でなければ出来ない表現になっていて素敵なショーだった。今後の活躍に大いに期待したい。

- 片手での切り絵はさすが。独創性があるショーで既に完成されている感じで巧み。今後、踊り手がパフォーマンスに組み込まれるとなお良い。
- マジック内容は良い。観客との距離間の取り方が上手く、度胸があって見ていて不安がない。もう少し驚くようなマジックがあるとさらに良かった。
- 力の抜けたとぼけたキャラクターと楽器の音色が絶妙にマッチしていて面白かった。衣装もトークの流れや間も、しっかり世界観が統一されていて素晴らしかった。
- ロリポップが面白く、大道芸として良かった。技術力、身体能力、構成力も高く、今後に期待したい。
- スティックのみのショーは特徴的で他に見たことがなくユニーク。地味に見えがちなので、いろいろ工夫していたのは良かった。今後、さらなる技術の発展を楽しみにしたい。
- 冒頭の盛り上げ方もうまく、一気に華やかになる。明るい笑いが良い。構成や小道具を使った舞台の見せ方も素晴らしい。
- ネタはスタンダードなものが多いが、大道芸でイリュージョンに挑戦する心意気は良い。マイクパフォーマンスも流暢で安心して見ていられる。
- 客上げがうまく、観客を巻き込んだうえで、組体操であれほど盛り上げるのは唯一。
- 10 分間乱れず踊り続けられる体力と見飽きない技術の高さが素晴らしい。構成も良く見応えがあり、ショーとしての完成度が高かった。
- 2 人の柔らかい雰囲気と衣装や BGM がマッチした世界観がユニークで良かった。身長差のバランスもうまくいかして、シンプルだが 2 人ならではの息の合ったショーだった。
- 曲に合わせて複雑なバルーンを作る様子は技術力を感じた。バルーン作品をもっと見せるとよい。季節感のあるネタも良く、最後の展開にインパクトがあった。
- ハンドベル付きリングの道具を含め、オリジナルを極めており、唯一無二のパフォーマンス。技術力も高く、目だけでなく耳でも楽しめた。
- 柔らかく野性味のあるパフォーマンスから、曲も変わり一転、後半のアクロバットは、技術力はもちろん、ストイックに技術を極める「孤独さ」も表現されていて晴らしかった。
- 浪曲の説明や掛け声のレクチャーも分かりやすく良かった。声も良く通り実力十分。伝統芸能は馴染みのない人が多いので、気軽に見られるのは良いと思う。
- 2 人だからこそできるタップダンスが表現されていた。人形の工夫などもっとあるとよいが、タップダンスのコミカルなショーはあまり見ないので全体として良かった。
- 技のミスが少ない。はしごと長いバトンを使ったパフォーマンスは、見るからに高難度にも関わらず、成功させて素晴らしかった。今後に期待したい。
- 高所での目隠しの縄跳びは、強靱な精神力と日々の鍛錬の成果が出ていて素晴らしい。2 人の時以上に安全面に配慮し、とにかく事故のないように気を付けてほしい。
- やりたいことが多いのか、少しせわしない点はもったいなかったが、サイコロ 16 個のパフォーマンスは技術力が高く驚いた。一回で成功させる精神力も素晴らしい。
- ミスが多いのは残念だったが、手品が演出としていきっていた。キャラクターが面白く盛り上げも上手。今の時代、衛生面や体について触れるのは気を付けた方が良い。

- あと一歩届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点
- 技量は問題ないが、間近なのにスピーカーからの音しか聞こえないのはライブ感に欠けた。観客へのレクチャーやシーンの展開を増やすなどの工夫があると良い。
- 技術が劣って見える演目があった。ローラーバランス上で前を見ないのが気になった。流れ・繋ぎを工夫できると良い。名前由来のテーマカラーがあるのは良い。
- ブロンズの衣装の完成度は高く、静止もきちんとしていたが、パネルを読ませる時間が長過ぎたのが残念。最初にコインを配るなど観客を巻き込む工夫があると良い。
- ポールダンスで、回転速度が必要な場面でスピードが落ちていた印象。技術力の向上が求められる。演劇とのつながりが分かりやすい構成になると良い。
- 難しい技であることは分かるが、失敗で終わってしまったのは残念。何度も挑戦する姿は応援したくなる。引き続き頑張ってもらいたい。今後に期待します。
- 腕時計を毎回オチにしている点がユニークで面白かった。ただ、凄さが伝わりにくく、どこでリアクションして良いか分かりづらかった。間の取り方が改善されると良い。
- 体は柔らかいがバリエーションが少なかった。パントマイムとアニメーションダンスも動きのクオリティが良くなかった。今後の技術の向上に期待したい。
- 「エモーション」が体で表現されていて良かったが、動きの変形が少ないのと解説が長かったのが残念。エモさの良さがちゃんと世間に伝わっていくことに期待したい。

【■音楽部門】

- 合格点に達したアーティストの評価できる点
- 力強いが柔らかさもある歌唱力は高く、表現力も十分。演奏スタイルが完成していて、オリジナル曲でも人を惹きつけられそう。
- 日本でトップの演奏と他にはない世界観で、道行く人達も足を止めるだろう。楽器の説明も良かった。
- 演奏技術が高くアンサンブルの音量も適切。聴く機会の少ない楽器を持ち替えながらの演奏で音楽の幅が広がっていて良かった。
- あと一歩届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点
- オリジナル曲は良く、伸びる可能性を感じたが、サウンドチェックが不完全で、旋律が聴こえない部分があったのが残念。
- 工夫されたパフォーマンスは明るく好印象だったが、コミカルな演奏には個々の技術に差があり技巧不足を感じた。
- 技術や芸術性だけでなく、もう少しエンターテインメント性や遊び、楽しげな表情があると良かった。
- 演奏には味があり、心を惹かれるものがあった。MCも楽しくできそうなので、もう少し口上があっても良かった。

- 技術的には問題なく、MC も慣れた感じだったが、声量がもう少し欲しかった。
- パフォーマンスとしては楽しかったが、もう少し楽器や楽曲の良さが伝わるような演奏だとさらに良かった。
- 息ぴったりの演奏ではあったが、外でやるには、もう少しダイナミズムや面白さがあると良かった。
- 音質が良く安定しており、MC も好印象だったが、メロディを演奏する以外の工夫があるとさらに良かった。
- 息が合っていて出来上がったパフォーマンスではあったが、楽器間で演奏力に差があると感じた。
- 楽しんで演奏している様子は良かったが、少し音量が大き過ぎるのと、大人数の良さが生かせていない点があると感じた。衣装に何か共通点を持つなど工夫があると良かった。
- オリジナリティがあり面白さはあったが、楽器の音量のバランスが悪かったので、アレンジを変えるなど工夫があると良い。
- MC は慣れていて分かりやすい。演奏だけでなく、歌にも挑戦するのは良かったが、全体のレベルが下がったようで残念だった。
- 珍しい楽器なので目を引くかもしれない。MC は慣れていて良かった。やりたいことは分かるが、音楽部門としてどうか。

(全体総括)

第 25 回公開審査は、変わりやすい秋空のもと、13 年ぶりに都民広場で開催されました。

今回はベテランアーティストの更なる挑戦や若い世代の参加も多数あり、過去の審査講評を咀嚼し自身のパフォーマンスに反映して再挑戦された方もいました。また、独自性のある実演が多かったと思います。

こうしたアーティストの方たちが、たくさんの観客が見守る中、公開審査会という同じ舞台に立ち、切磋琢磨する機会となることを願いつつ、今回の講評も「あと一歩頑張ってほしい」という期待を込めています。

今回残念な結果となった方も、再びチャレンジしてほしいと思います。

最後に、パフォーマンスアートや音楽の道を志す全てのアーティストのさらなる飛躍を期待します。

ヘブンアーティスト審査会

審査委員長 森 直実

審査委員 (パフォーマンス部門) 大久保 砂智子、乗越 たかお、吉田 武司
(音楽部門) 梶 奈生子、松村 正人